

<一般研究>

父親の育児に関する認識と実践について(第3報)

研究第2部 窪 龍子・斉藤幸子
高野 陽

I 目的

我々は先に幼児をもつ父親に対し、子ども観、育児の実践、自分の父親の人物、父親観、自己評価などについて調査したことを報告した¹⁾。さらに、自由記述欄に述べられた意見についても分析した結果を報告した²⁾。

その結果、現代の父親は、昔に比べると権威がなくなったとか、優しくなったとか言われながらも、父子間に心理的距離を保っていることが示唆された。これは母子関係と最も異なる点であり、母親はアタッチメントの形成により密着した関係を作るのに対し、父親はその母子の密着した関係を引き離し、子どもを社会化するのが役割と言われていることと一致する。

そこで今回は、前回得られた結果をもとに、次の事柄について、アンケート調査を実施した。

- (1) 父子間の心理的距離のとり方
- (2) 父親と子どもの位置関係
- (3) 父親のあり方(厳しいか優しいか)
- (4) 父親の育児上の不安、不満についての賛否
- (5) 父親の権威の有無
- (6) 父親の権威とは何か
- (7) 理想的な父親とはどんな父親か
- (8) 子どもの健康増進のための父親の実践

なお、(1)~(3)及び(5)については、父親自身とその父親の違いを知るために、祖父についての父親自身の判断も求めることとした。

II 調査方法

昭和58年6月、首都圏(川崎市、相模原市、町田市)にある3幼稚園、2保育園に4~6歳の子どもを通わせている父親を対象に、園を通してアンケート用紙を配布し、記入を依頼した。(アンケートの内容については、別添資料参照)

III 結果

回収率は64.7%であったが、園ごとの回収率及び所在地は表1に示した。回答のあった父親(以下、父親と称す)と母親の年齢は表2に示したが、父母共に30歳代が75%以上を占め、最も多かった。父親の学歴と職業の関係を表3に示した。父親の学歴は大学卒が48%、高校卒が36%であったが、高学歴になるほど、事務系の職業が多かった(0.1%水準で有意)。母親の学歴は高校卒が53%で最も多かった(表4参照)。

父親の子どもの年齢、性別、兄弟数は表5に示したが、

表1 アンケート協力園の所在地と回収率

		所在地	送付数	回答数	回収率
幼稚園	A	川崎市	39	13	33.3
	B	相模原市	140	96	68.6
	C	川崎市	256	169	66.0
保育園	D	相模原市	42	28	66.7
	E	町田市	27	20	74.1
計			504	326	64.7

表2 父親及び母親の年齢 人(%)

年齢(歳)	父親	母親
~ 24	0 (0)	0 (0)
25 ~ 29	18 (5.5)	53 (16.3)
30 ~ 34	108 (33.1)	174 (53.4)
35 ~ 39	144 (44.1)	71 (21.8)
40 ~ 44	40 (12.3)	11 (3.4)
45 ~ 49	10 (3.1)	3 (0.9)
不明	6 (1.8)	14 (4.3)
計	326	326

5歳児が約50%，性別は半々，1人っ子が66%であった。それに対し，父親の兄弟数は1人っ子が6%，2人が23%，3人が26%，4人以上が45%であった(表6参照)。家族形態について表7に示したが，現在の家族は90%以上が核家族であるのに対し，原家族では約60%が核家族であった。兄弟数，家族形態共に父親の子ども時代より変化がみられる。

表3 父親の学歴と職業の関係 人(%)

学歴	職業	事務系	技能系	計
中学校卒		7(3.9)	27(19.0)	34(10.4)
高等学校卒		39(21.8)	77(54.2)	116(35.6)
文科系大学卒		70(39.1)	15(10.6)	85(26.1)
理科系大学卒		57(31.8)	14(9.9)	71(21.8)
不明		6(3.4)	9(6.3)	15(4.6)
計		179	142	326

$$\chi^2=17.81 \quad P<0.001$$

表4 母親の学歴 人(%)

中卒	24(7.4)
高卒	173(53.1)
文・大卒	83(25.5)
理・大卒	14(4.3)
不明	32(9.8)
計	326

表5 子どもの年齢，性別及び兄弟数 人(%)

年齢	4歳	107(32.8)
	5歳	160(49.1)
	6歳	37(11.3)
	不明	22(6.7)
性別	男児	137(42.0)
	女児	118(36.2)
	不明	71(21.8)
兄弟数	1人っ子	215(66.0)
	2人	82(25.2)
	3人以上	29(8.9)

表6 父親の兄弟数 人(%)

1人っ子	19(5.8)
2人	76(23.3)
3人	84(25.8)
4人	55(16.9)
5人	42(12.9)
6人以上	47(14.4)
不明	3(0.9)
計	326

表7 父親の家族形態 人(%)

	現在の家族	原家族
核家族	303(92.9)	201(61.7)
大家族	23(7.1)	121(37.1)
不明	0	4(1.2)
計	326	326

1. 父子関係

表8に父子間の心理的距離のとり方についての結果を示した。自分自身と自分の父親(以下，祖父と称す)について父親の判断による結果ではあるが，父親と祖父の間に有意差がみられた(0.1%水準)。最も多かった父親の回答は「子どもから父親に働きかければ応える」というもので，祖父が24%であるのに対し，父親は47%と約2倍になっている。さらに「父親から子どもに接近する」父親は24%で，祖父の8%に比べると約3倍に増えている。反対に「子どもからは近寄りたくない存在」とい

表8 父子間の心理的距離のとり方 人(%)

	父親	祖父
父親から子どもに接近する	76(23.6)	26(8.3)
子どもから父親に働きかければ応える	151(46.9)	75(23.9)
父親は手本を示し，子どもに従わせる	18(5.6)	26(8.3)
子どもからは近寄りたくない存在	9(2.8)	83(26.4)
特別なことは何もしない	51(15.8)	81(25.8)
その他	17(5.3)	23(7.3)
計	322	314

$$\chi^2=22.09 \quad P<0.001$$

う父親はわずか3%であるのに対し、祖父は26%もあり、
 遙くも少なくなっている。

表9には、父親と子どもの位置関係についての結果を示したが、この表からわかるように、父子間の位置関係は、父親と祖父とでは明らかに違いがみられた（0.1%水準で有意）。現代の父親は、祖父の世代と比べると、子どもに対して「友だちのように仲よく対等に接する」者が18%で約6倍、「子どもの自主性を重んじ伸び伸びさせる」者が42%もあり約1.5倍、「子どもの言う通りに希望をかなえてやる」者が18%で約2.2倍と増えている。反対に、「文句を言わず、父親の考えに従わせる」父親は8%で祖父の30%に対し1/3以下に減っている。

表10には、父親のあり方、つまり優しいか厳しいかの観点から調査した結果を示した。現代の父親は「子どもの話に耳を傾け優しく接する」者が23%で、祖父の6倍、

表9 父親と子どもの位置関係 人(%)

	父親	祖父
友だちのように仲よく対等	57(17.6)	10(3.2)
父親が子どものガキ大将	16(5.0)	3(1.0)
文句を言わず、父親の考えに従わせる	27(8.4)	95(30.4)
子どもの自主性を重んじ伸び伸びさせる	137(42.4)	88(28.1)
子どもの言う通りに希望をかなえてやる	59(18.3)	26(8.3)
その他	27(8.4)	91(29.1)
計	323	313

$$\chi^2=22.09 \times P < 0.001$$

表10 父親のあり方 人(%)

	父親	祖父
子どもの話に耳を傾け優しく接する	73(22.7)	11(3.6)
物事のけじめなど厳しくしつける	85(26.5)	84(27.3)
いざという時頼りになる	37(11.5)	65(21.1)
かわいいので甘くなる	34(10.6)	12(3.9)
恐い存在だと思わせる	11(3.4)	24(7.8)
子どもは放っておくのがよい	20(6.3)	39(12.7)
あれこれ細かいことも注意する	44(13.7)	17(5.5)
その他	17(5.3)	56(18.2)
計	321	308

$$\chi^2=25.94 \quad P < 0.001$$

「かわいいので甘くなる」者が11%で、祖父の約3倍、「あれこれ細かいことも注意する」者が14%で、祖父の2.5倍に増えている。反対に「いざという時頼りになる」という者は11.5%で、祖父の約1/2、「恐い存在だと思わせる」者は3.4%で、祖父の1/3、「子どもは放っておくのがよい」という者は6%で、祖父の1/3に減っている。但し「物事のけじめなど厳しくしつける」という者は、父親、祖父共に27%あり変っていない。

2. 父親の育児上の不安、不満

第2報で報告したように、自由記述欄には、育児上の不安や不満が述べられていた。そこで今回はそれらの意見に対する賛否を問うてみたのである。その結果を表11に示した。大方の意見に対して否定する回答が多かった。半数以上の父親が否定した意見は「子どもが母親と多く接し、母親になつづのが残念。寂しい」「子どもと接する時間が少なく、ツーカーの間柄になれないのが残念」などの父子間関係の希薄さに対するもの、「年長組になれば、父親と一緒に遊ぶ時間は不要である」「5歳になればもう男(女)として接する。子どもとしての教育は3歳まで」など、早期に子ども扱いをやめるとする意見に対するもの、「しつけをする時、説得力に欠けるので、子どもが成長するにつれて将来のことが不安になる」「自慢すべきものが何もないので、良い手本をみせてやれない。子どもに申しわけない」「昔ながらのしつけをしているが、よその子どもとしつけの方法が異なるので迷う」など、育児上の不安、自信のなさに対するもの、以上の三点についてであった。反対に、半数近くの父親が賛成した意見は「子どもと接する時間が少ないので、会うと甘やかしがちになる。注意したい」「最近の子どもは兄弟が少ないので、父親が兄弟の一人ようになるのは仕方ない面もあるがよいことではない。母親などが父親とはどういふものか、子どもに教える必要がある」「子どもを理解すること、しつけ、子育て、すべて難かしい」という三つに対してであった。

3. 父親の権威

父親と祖父の権威の有無について、父親の判断による結果を表12に示した。現代の父親で「権威あり」とする者は24%あるが、これは祖父の約半分である。「権威やあり」「ふつう」と答えた父親は、祖父のそれらより約1.5倍多い(0.1%水準で有意差あり)。しかし「権威なし」「権威やなし」は、父親・祖父共に少なく、差はみられなかった。

「父親の権威とは何か」について、自由記述してもらったが、その結果を表13に示した。記者者は226名で全回答者の69.3%にあたる。立場上からの回答では「家庭

表 11 父親の育児上の不安、不満についての意見に対する賛否

人(%)

	そう思う	どちらとも いえない	そう思わ ない	不明
子どもと接する時間が少ないので、会うと甘やかしがちになる。注意したい。	135(41.4)	79(24.2)	103(31.6)	9(2.8)
子どもが母親と多く接し、母親になつくのが残念。寂しい。	37(11.3)	57(17.5)	225(69.0)	7(2.1)
仕事をする姿を子どもに見せられないのが残念	71(21.8)	103(31.6)	147(45.1)	5(1.5)
子どもと接する時間が少なく、「ソーカー」の間柄になれないのが残念。	41(12.6)	85(26.1)	194(59.5)	6(1.8)
父親は経済的不安を与えないことが第一。そのために忙しいのだとわからせたい。	83(25.5)	86(26.4)	149(45.7)	8(2.5)
子どもと一緒に出かけたりしないのでかわいそうだが、休日には休みたい。	106(32.5)	73(22.4)	142(43.6)	5(1.5)
最近の子どもは兄弟が少ないので、父親が兄弟の一人のようになるのは仕方ない面もあるがよいことではない。母親などが、父親とはどういうものか、子どもに教える必要がある。	150(46.0)	85(26.1)	84(25.8)	7(2.1)
子どもは、父親よりも幼稚園や保育園での影響を多く受けるので、その指導者たちに厳しさを望む。	86(26.4)	114(35.0)	118(36.2)	8(2.5)
年長組になれば、父親と一緒に遊ぶ時間は不要である。	8(2.5)	24(7.4)	284(87.1)	10(3.1)
5歳になればもう男として(女として)接する。子どもとしての教育は3歳まで。	21(6.4)	64(19.6)	235(72.1)	6(1.8)
どの程度まで、子どもに干渉すべきか迷うことが多い。	95(29.1)	64(19.6)	161(49.4)	6(1.8)
しつけをする時、説得力に欠けるので、子どもが成長するにつれて将来のことが不安になる。	48(14.7)	66(20.2)	205(62.9)	7(2.1)
子どもを理解すること、しつけ、子育て、すべて難しい	155(47.5)	81(24.8)	91(27.9)	9(2.8)
自慢すべきものが何もないので、良い手本をみせてやれない。子どもに申しわけない。	26(8.0)	48(14.7)	245(75.2)	7(2.1)
昔ながらのしつけをしているが、よその子どもとしつけの方法が異なるので迷う。	22(6.7)	71(21.8)	227(69.6)	6(1.8)

内の大黒柱、責任者」というものが多く、内容的には「人間性、人格そのもの、生きざま」「いざという時厳しい、ゆずらない」という回答が多かった。また、数は少ないが、父親の権威そのものを否定する意見が11(4.9%)あった。

表 12 父親の判断による権威の有無 人(%)

	父 親	祖 父
権威あり	75 (24.4)	142 (48.0)
権威ややあり	72 (23.5)	51(17.2)
ふ つ う	137 (44.6)	77 (26.0)
権威ややなし	17 (5.5)	16 (5.4)
権威なし	6 (2.0)	10 (3.4)
計	307	296

$x^2=20.02 \quad P<0.001$

表 13 「父親の権威とは何か」に対する意見

人(%)

立 場	絶対者として君臨する	4(1.8)
	家庭内の大黒柱、責任者	24(10.6)
	父親としてではなく、大人として責任を果す	6(2.7)
	リーダー、人生のよき先輩	7(3.1)
内 容	判断力、決定権を持つこと	21(9.3)
	指導力をもち、正義感を具現する	19(8.4)
	助言者、理解者	15(6.6)
	人間性、人格そのもの、生きざま	41(18.1)
答	尊敬されること	14(6.2)
	いざという時頼りになること	20(8.8)
	いざという時厳しい、ゆずらない	25(11.1)
	経済の担い手、生活を守る	14(6.2)
	包容力があり、一步離れて見守る	9(4.0)
	そ の 他	24(10.6)
権威を否定する意見		11(4.9)
回 答 者 数		226

注) 重複回答あり

表14 「どんな父親が理想的か」に対する意見

人(%)

父 親 自 身 の 姿 勢	仕事に意欲的、経済力を持つ	17 (7.4)
	社会人としての生き方を見せる、良識ある市民	7 (3.0)
	家庭生活を築く、家族を大切にす、妻子の後楯	27 (11.7)
	何事にも自信をもって明確に対応できる、スーパーマン	6 (2.6)
	人生とは何かを感じさせるよき先生、手本、真剣に生きる	25 (10.9)
	絶対者	3 (1.3)
	指導者、正しい道を教える、けじめを教える	20 (8.7)
	助言者、援助者、協力者、アドバイスができる	10 (4.3)
	尊敬される、「父のようにになりたいがなれない」と思われる	27 (11.7)
	頼りがいのあるよき相談相手、信頼される、慕われる	33 (14.3)
子 ど も に 対 す る 姿 勢	友だち的關係、対等の立場	16 (7.0)
	父親としてより、まず人間として立派であること	16 (7.0)
	子どもの発達について理解し、即応できる	4 (1.7)
	子どもの気持が理解できる。話がきける	27 (11.7)
	子どもを信頼している、人格を尊重する	7 (3.0)
	子どもの疑問に正確に答える、正確であることをつみ重ね	5 (2.2)
	あそび相手になる、放任せず接触する、スポーツの指導者	16 (7.0)
	いつもは見守り、要所だけは厳しくおさえる	22 (9.6)
	子どもの要求を100%受け入れる	1 (0.4)
	共に学ぶ、共に理解しあえる	4 (1.7)
そ の 他	子どもの長所を伸ばす、自主的なものを尊重する	9 (3.9)
	自由放任、干渉しない、細かいことを言わない	3 (1.3)
	うまく教育してコントロールできる	1 (0.4)
	母親とは異なる見地から接する	3 (1.3)
	育てる（年齢相応の責任感、正確な判断力、社会人に）	3 (1.3)
回 答 者 数	230	

注) 重複回答あり

4. 理想的な父親

自由記述によって、「理想的な父親とはどんな父親か」についても記入してもらった。記入された回答は230で、全回答者の70.6%にあたる。その結果を表14に示した。

父親自身の姿勢について述べたものでは、「家庭生活を築く、家族を大切にす、妻子の後楯となる」「人生とは何かを感じさせるよき先生、手本、真剣に生きる」「尊敬される。父のようにになりたいがなれない」と思われる」

「頼りがいのあるよき相談相手、信頼される、慕われる」という意見が、それぞれ10%以上あり多かった。

子どもに対する姿勢では「子どもの気持が理解できる、話がきける」が11.7%、「いつもは見守り、要所だけは厳しくおさえる」が9.6%で多かった。

5. 子どもの健康増進のための父親の実践

第1報において報告したように、父母共に願う子ども像は、「第一に「健康で元気のよい子」であった。そこで、

子どもの健康増進のために、父親が何かをしているか否かについて尋ねた。その結果が表15である。約半数の父親は、特別には何もしておらず、26%の父親が、スポーツなどを教えたり、戸外に連れ出したりしており、約10%の父親が、自分の考えでスポーツ教室に通わせているという結果であった。

表15 子どもの健康増進のための父親の実践 人(%)

スポーツなどを教えたり、戸外に連れ出したりしている	86(26.4)
父親の考えでスポーツ教室に通わせている	32(9.8)
その他のことをしている	25(7.7)
特別には何もしていない	158(48.5)
不 明	25(7.7)
計	326

なお、それぞれの調査結果について、父親の社会的・家庭的背景(年齢、職業、学歴、家族形態)、母親の条件、子どもの条件(性格、きょうだい数)などの項目別に分析を試みたが、いずれの場合も有意な差を得ることはできなかった。

IV. 考 察

今回の調査は、前回の調査結果をもとに、アンケートの内容を作成するなどして、できるだけ父親の実態に近づくことを心がけた。前回までの調査結果に積み重ねた調査である。今回の調査結果から、幼児期の子どもの持つ父親の実態について、明らかになったことと、課題として残ったことについて考察する。

1. 父子関係の変化と父子間の心理的距離

現代の父子関係は、祖父の世代のそれに比べると、大きく変化してきている。

父子間の心理的距離のとり方では、祖父の世代が、近寄りたが恐い存在と表現されるような、父子間に一線を画する距離の保ち方をする者、特別には何もしない者、子どもから働きかければ応える者、と三様であったのが、父親の世代では前の二者が少なくなり、後の一者が倍増し、さらには父親から子どもに接近する者が急増して、父子間の心理的距離は近くなったといえることができる。

父親と子どもの位置関係は、祖父の世代は、文句を言わず父親の考えに従わせるというように、上下関係を

はっきりさせていた者と、子どもの自主性を重んじ伸び伸びさせるという子ども中心の者との二通りであったのが、父親の世代では、前者がなくなり、後者が倍増した上に、子どもの言う通りに希望をかなえてやる、友だちのように仲よく対等に接するなど、上下関係をなくした接し方をする父親が増えている。

父親が子どもに対して優しいか厳しいかについては、祖父の世代では、厳しくしつける、いざという時頼りになる、放っておくという三つのあり方が多かったが、父親の世代では、厳しくしつけるという者は変らないものの、後の二つのあり方は減り、代りに優しく接する、甘くなる、細かく注意するという者が増えてきている。

このようにしてみると、祖父の世代の父親像も一通りではなく、いろいろであったが、祖父の世代にはあった、近寄りたが恐い存在で、父親の意見に従わせ、いざという時には頼りになる父親が、現代では激減し、代りに子どもからの働きかけには応え、子どもの自主性を重んじ、物事のけじめは厳しくしつけ、優しい父親が増えて来ている。この点だけを考えると、風間³⁾が指摘しているように、現代の父親は、母親と同じように「密着型」になっているといえることができるかも知れない。しかし、祖父の世代の父親像からは変化して来ているのであるが、母親像とはやはり異なっている。それは、父子間の心理的距離のとり方が、「子どもから父親に働きかければ応える」という回答が47%を占めている結果にあらわれているといえよう。つまり、母親は自分から子どもに働きかけて行くことによって密着して行くのであって、「子離れ、親離れ」と言われることを意識しない限り、母子間に距離をおくことはしない。それはアタッチメントの形成上大切なことであり、母親の役割として奨励されていることでもある。従って、父子間の心理的距離が近くなり、子ども中心に考える優しい父親が増えたといっても、やはり、父子間に心理的距離は存在しており、子どもにとって母親とは異質の親として存在しているといえることができる。

但し、祖父の世代にあった厳格な父親と、現代の優しい父親と、どちらが子どもの成長にとって望ましいのかは別問題であり、その解答を得るためには他の多くの研究結果を待たなければならない。

2. 父親の育児上の不安、不満

父親の育児上の不安、不満についての意見に対しては反対者が多く、育児上の不安や不満は少ないといえよう。父子関係が希薄だという意見に対する否定や、早期に子ども扱いをやめた方が良いという意見に対する否定、ついつい子どもを甘やかすので注意したいという意見に対

する肯定は、自分の父子関係が密接であることを表わしており、前項で述べた結果を裏づけるものであるといえよう。

父親として自信のなさを表明した意見には否定する者が多かったが、育児は易しいことと思っているわけではなく、「子どもを理解すること、しつけ、子育てはすべて難しい」とする意見には肯定する者が多かったのである。最近の子どもは兄弟が少ないので、父親が兄弟の一人のようになるのは仕方ない面もあるがよいことではない。母親などが、父親とはどういふものかに子どもに教える必要がある」という意見を肯定する者が多いということは、何を意味するのであろうか。先に述べたように、現代の父親は子どもに接近し、子ども中心に考える優しい父親であるのだが、それはやむをえずそうしているのであろうか、それとも自分でそうしたくてしているのであろうか。さらにまた、父親とはどういふものかを自分自身で子どもに知らせず、母親に父親のイメージ作りを期待しているということは何を意味するのであろうか。二つの疑問点が残る。これは今後、解明して行く必要のある課題であると思われる。

3. 父親の権威

中根⁴⁾は、「権威が形成されるためには、権威者と権威に服する者との間に一定の距離が必要であり、権威に服する者の人数が多いほど、その権威は高くなる」と述べている。表5、表7に示したように、現代は一人っ子が66%もあり、核家族が93%も占めている現状では、父親の権威に服する者の人数は減り、先に述べたように父子間の距離も近くなって来ている。さらに社会的には家長制度が廃止されて、現代の父親はその権威を発揮しようにも、発揮しにくい状況下におかれているといえることができる。

今回の調査結果において、「権威あり」とする祖父が48%であったのに対し、父親は半に減ったが、「権威なし」という者は、祖父、父親共に少ない。これは、現代の父親は「権威あり」と明言できないまでも、決して「権威なし」とは思っておらず、「ふつう」に、あるいは「やや」権威はあると思っていることを示している。「権威あり」の程度が近くなったのである。その理由が、現代の父親をとりかこむ状況が権威を発揮しにくくなったからなのか、父親自身が父子間の距離を接近させたい、民主的でありたいと願った結果からなのかは明らかでない。また、「権威あり」と明言できないことを父親自身はよしとしているのかどうかも不明である。前項で述べた課題とも関連するが、今後、解明して行かなければならない。

「父親の権威とは何か」については、自由記述であったので、さまざまな観点から意見が述べてあり、まとめにくい。しかし、「絶対者として君臨する」という意見は少なく、「家庭内の大黒柱」「責任者」とする意見が多いことは、家庭内において民主的なリーダーであることが父親として権威を持つ者であるということになる。さらにその内容も「人間性」「人格そのもの」「生きざま」という意見が多かったのだが、これらは「その人がそこにいれば自ずと権威が生まれる」とことを父親が自分に期待しているのか、「権威とは自然発生的なものであるべきだ」と客観的に述べているのか明らかではない。権威者であることと父親であることがどう結びつくのか、今回の調査結果をもとに、「権威」の基準を明らかにした上で、今後も調査を続けて行く必要がある。

4. 理想的な父親

どんな父親が理想的かについても、自由記述によって記入してもらったわけだが、父親の姿勢としては、「頼りがいのあるよき相談相手、信頼される、慕われる」「尊敬される父親のようになりたいがなれないと思われる」父親というのが多い回答であった。これらは、父親としてどのような姿を子どもに映じたいかを述べたものであって、子どもに自分から働きかけることはしない、父子間に心理的距離をおいている父親のあり方を示した回答であるといえよう。次に多かったのは「家庭生活を築く」「家族を大切にす、妻子の後援」という現実的な回答である。「人生とは何かを感じさせるよき先生」「手本。真剣に生きる」という父親も多かったが、この意見も、直接には子どもに働きかけるわけではないので、父子間の心理的距離を感じさせるが、間接的には自分の生き方を手本として示すという点で、最初の意見とは異なり積極性を感じる。

子どもに対する姿勢で、理想的な父親は「子どもの気持が理解できる、話がきける」という意見が多く、第1項で述べたような、子どもに接近しようとする父親の姿が伺える。次には「いつもは見守り、要所だけは厳しくおさえる」と父親が多かった。これは祖父の世代から変らない意見が表明されたものと思われる。

5. 子どもの健康増進のための父親の実践

子どもが健康で元気のよいことを、父母共に一番に願っており、父親と子どもの間も接近しているのだが、実際に、父親が子どものために何かをすることは少ない。子どもの健康増進のために、特別には何もしない父親が約50%、スポーツなどを教えるため戸外に子どもを連れ出す父親は、26%にすぎない。父子間が接近したといっても、密着した関係ではないことを示唆している。

V 要約

4～6歳の幼児を幼稚園及び保育園に通わせている父親に対して、園を介してアンケート調査を行なった。回収率は64.7%で、326名の父親から回答が寄せられた。

調査項目は、父子関係（心理的距離、位置関係、父親のあり方）、育児上の不安、父親の権威、理想的な父親、子どもの健康増進のための父親の実践についてである。

父子関係については、祖父の世代に約30%みられた、厳格な父親、即ち子どもが逆うことのできない近寄りたがたい父親は減り、代わりに子ども中心に物事を考え、子どもから言ってくればすぐに応ずる優しい父親が増えてきている。また権威の有無については、祖父の世代のように、はっきりと「権威あり」といえる父親は少なくなっているものの、「権威なし」とする父親も極めて少ない。「普通程度の権威はある」と思っている者が多いのである。

このように、祖父の世代の父親像と、現代の父親像は大きく変化してきている。しかし、父親が優しくなり、密着型が増えたとは言っても、母親のあり方とは異なっている。それは、父子間がいくら近くなったと言っても、やはり心理的距離は存在するからである。その裏づけは、自分から子どもに働きかける父親より、子どもから言ってくればそれに応える父親の方が多くことや、「理想的な父親」についての回答にもあらわれている。つまり、理想的な父親とは、子どもに何か働きかけるよりも、子どもが何らかのイメージを抱くような人物として存在するよう述べられることが多かったのである。さらに、子どもの健康が第一といっても、そのために何かをする父親も少ないのである。

育児について、父親は難かしいことが多いとしながら

も、不安や不満は少ない。

今後に残された課題として、次の事柄があげられる。

- (1) 子どもの望ましい成長にとって、父子間の距離は近い方がよいのか遠い方がよいのか。
- (2) 現代の父親が子どもに接近しているのは、父親自身が望んでいることなのか、やむをえずそうしているのか。
- (3) 理想とする父親像を、父親は自分自身で作り子どもに示そうとしているのか、それとも母親などによって子どもに伝えてほしいと思っているのか。
- (4) 父親の権威とは何か

以上の事柄については、今後も調査研究を続け、現代の父親像を明らかにして行きたい。

最後に、この調査にご協力いただいた、東菅幼稚園、相模白ゆり幼稚園、百合丘めぐみ幼稚園、鶴川桔梗保育園、和泉保育園の関係各位に深く感謝致します。

文 献

- 1) 窪籠子、青柳幸子、高野陽「父親の育児に関する認識と実践について」日本総合愛育研究所紀要第17集、P. 37-47、1981。
- 2) 窪籠子、青柳幸子、高野陽「父親の育児に関する認識と実践について（第2報）」日本総合愛育研究所紀要第18集、P. 53-58、1982。
- 3) 風間大治、『親子関係と家族教育の現代的状況(1)』、NHK総合放送文化研究所「文研月報」Vol. 27, No. 2, P. 24-35、1977。
- 4) 中根千枝、『父親の基礎と役割』NHK“70年代われらの世界”プロジェクト編「オヤジ—父なき社会の家族」ダイヤモンド社、1974。

<別添資料>

父親と子どもについてのアンケート

1.

昭和 年 月 日記入

I. ご家族（同居者を含む）についてお尋ねします。A欄の学校，B欄の職業は，下から選んで記号で
ご記入下さい。なお，お子さんは4～6歳児（年中，年長組）を対象にお考え下さい。

お子さんからみた続柄	年令	A. 学 校	B. 職 業	性 別	主に育児をする人に○印
父	2	3	4	/	
母	6	7	8		
お子さん本人	9 4・5・6	10		11 男・女	/
				男・女	
				男・女	
				男・女	
	12	13	14	男・女	

A；学 校

1. 中学校卒
2. 高等学校卒
3. 文科系大学卒（高等専門学校，短大，大学院を含む）
4. 理科系大学卒（ " " ）
5. 小，中，高，大学在学中
6. 未就学児
7. その他

B；職 業

- イ. 専門職 ロ. 管理職 ハ. 事務職 ニ. 販売職 ホ. 農林・漁業 ヘ. 運輸・通信職
ト. 技能職（工員，大工，製造業など） チ. 単純作業職 リ. 保安職（警察官，消防員，警備員など）
ヌ. サービス業 ル. その他 ラ. 無 職

II. お父さんが4～6歳の頃、ご家族は何人でしたか。

きょうだい（あなたも含めて）の人数	人	15
父母を含めて、大人の人数	人	16
その他の同居人（ ）	人	17
全 員 で	人	18

III. あなたは、お子さんに対してどのような接し方をしているでしょうか。さらに、あなたのお父さんはどうだったでしょうか。A, B, Cの各グループの中から、あてはまる番号を1つえらんで、の中に、ご記入下さい。

- A {
1. 父親から子どもに働きかけて、子どもの相手をする人が多い。
 2. 子どもから父親に、何か言ってくればそれに応えるがふだんは一步離れて、子どもを見守る。
 3. 父親としてよき手本を示し、子どもについて来させる。
 4. 子どもからは近寄りがたい、ちょっとこわい存在である。
 5. 特別なことは何もしない。
 6. 上記のどれにもあてはまらない。

Aの回答	
あなた ご自身	あなた の父親
19	20

- B {
1. 父と子が友だちのように仲よく対等に接する。
 2. 父親が子どものガキ大将ようになって接する。
 3. 子どもには文句を言わず、父親の考えに従わせる。
 4. 子どもの自主性を重んじて、のびのびさせる。
 5. 子どもの言うことはできる限りきいてやり希望をかなえてやる。
 6. 上記のどれにもあてはまらない。

Bの回答	
あなた ご自身	あなた の父親
21	22

- C {
1. 子どもの言うことにはよく耳をかし、やさしく接する。
 2. 物事のけじめなど、厳しいしつけをする。
 3. いざという時に頼りになる存在である。
 4. 子どもがかわいくて仕方がないので、つい甘くなる。
 5. 父親はこわい存在だと思わせるのがよいので、そうしている。
 6. 子どもは放っておくのがよいので、そうしている。
 7. あれこれ、細かいことも、気が付けば注意する。
 8. 上記のどれにもあてはまらない。

Cの回答	
あなた ご自身	あなた の父親
23	24

IV 次の1～15は、幼児をもつお父さん達の意見です。あなたのお考えや心情に合うものには○印、合わないものには×印、どちらとも言えないものには△印をおつけ下さい。

- | | | |
|---|----|--------------------------|
| 1. 子どもと接する時間が少いので、会うと甘やかしがちになる。注意したい。 | 25 | <input type="checkbox"/> |
| 2. 子どもが母親と多く接し、母親になつくので残念。寂しい。 | 26 | <input type="checkbox"/> |
| 3. 仕事をする姿を子どもに見せられないのが残念。 | 27 | <input type="checkbox"/> |
| 4. 子どもと接する時間が少く、「ツーカー」の間柄になれないのが残念。 | 28 | <input type="checkbox"/> |
| 5. 父親は経済的不安を与えないことが第一。そのために忙しいのだとわからせたい。 | 29 | <input type="checkbox"/> |
| 6. 子どもと一緒に出かけたりしないのでかわいそうだが、休日には休みたい。 | 30 | <input type="checkbox"/> |
| 7. 最近の子どもは兄弟が少いので、父親が兄弟の一人ようになるのは仕方のないが、兄弟面もあるがよいことではない。母親などが、父親とはどういうものか、子どもに教える必要がある。 | 31 | <input type="checkbox"/> |
| 8. 子どもは、父親よりも幼稚園や保育園での影響を多く受けるので、その指導者たちに厳しさを望む。 | 32 | <input type="checkbox"/> |
| 9. 年長組になれば、父親と一緒に遊ぶ時間は不要である。 | 33 | <input type="checkbox"/> |
| 10. 5歳になればもう男として（女として）接する。子どもとしての教育は3歳まで。 | 34 | <input type="checkbox"/> |
| 11. どの程度まで、子どもに干渉すべきか迷うことが多い。 | 35 | <input type="checkbox"/> |
| 12. しつけをする時、説得力に欠けるので、子どもが成長するにつれて将来のことが不安になる。 | 36 | <input type="checkbox"/> |
| 13. 子どもを理解すること、しつけ、子育て、すべて難かしい。 | 37 | <input type="checkbox"/> |
| 14. 自慢すべきものが何もないので、良い手本をみせてやれない。子どもに申しわけない。 | 38 | <input type="checkbox"/> |
| 15. 昔ながらのしつけをしているが、よその子どもとしつけの方法が異なるので迷う。 | 39 | <input type="checkbox"/> |

V. 近ごろ「父親の権威」について、いろいろ言われていますが、あなたは「父親の権威」とは、どのようなものだと思いますか。またあなたは「父親の権威」のある方だと思われますか。あなたのお父さんはどうだったのでしょか。

A. 「父親の権威」とは？ できるだけ具体的にわかりやすく、お述べ下さい。

40

B. 「父親の権威」の有無。あてはまる に○印をおつけ下さい。

	権威あり	ややあり	ふつう	ややなし	権威なし	
あなたご自身	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	41
あなたの父親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	42

VI. 「理想的な父親」とは、どのようなお父さんだと思いますか。現実のさまざまな事情は抜きにして、お述べ下さい。

43

VII. 「健康で元気のよい子」は、多くのお父さん、お母さん達の第一の願いであるという調査結果があります。お子さんの身体をきたえたり、体力をつけるために、お父さんがなさっていることが何かありますか。

44 45

1. 特別には何もしていない

--	--

2. している {

- 1. スポーツなどを教えたり、戸外に連れ出したりする。
- 2. 父親の考えでスポーツ教室に通わせている。
- 3. その他 ()

VIII. その他、父子関係についてお気付きのことがありましたら、どんなことでもご自由にお書き下さい。

46

※ ご協力ありがとうございました。